

今こそ国際リニアコライダー(ILC)実現を

岩手県ILC推進協議会 会長 谷村邦久

(盛岡商工会議所会頭、岩手県商工会議所連合会会長)



はじめに

本誌掲載のILCシリーズへの私の寄稿は、2019年11月号以来ですが、今回は主に2020年の国内外における各方面の動向と、それに関連した私どもの活動について述べさせていただきます。

1 「タイムリーな実現」を期待する欧州

2020年6月、欧州では次期欧州素粒子物理戦略において「日本におけるILCのタイムリーな実現は欧州の戦略と適合する。」と発表されました。欧州では、CERNのHL-LHCという実験計画が進行中ですが、この計画では、LHCの高度化建設を2020年

代後半に完了し、その後2030年代にかけて10年程度、素粒子物理実験を行う予定となっております。ここで言う「タイムリーな実現」とは、2030年代中頃にILCの実験が開始されることを指していると私どもは理解しております。

2 世界推進体制の強化とILC実現へのロードマップ

同年8月、世界の主だった加速器研究所で組織するICFA(国際将来加速器委員会)は、国際推進チーム(IDT)をつくばの高エネルギー加速器研究機構(KEK)を拠点に設立し、ILC計画実現のため国際間による世界推進体制を強化いたしました。

世界の動きに連動し、東北においては実務的

準備を推進するため「東北ILC事業推進センター」が設置され、代表に鈴木厚人岩手県立大学長が就任し、業務を開始いたしました。

ILC実現に向けて国際研究者が示した道筋は、IDTによる準備研究所創設のための準備活動を1~1.5年(第1段階)、その後4年程度ILC準備研究所が活動する(第2段階)。国際協定によるILC国際研究所が設立された後、ILC建設に着手し10年程度で完成(第3段階)。その後、20年以上の運用(第4段階)が始まることとなっており、その活動がすでにスタートいたしました。

3 コロナ禍における講演会の開催

コロナ禍の最中の9月24日、当推進協議会にとっては初めてとなるWeb講演会を盛岡



Web講演会盛岡会場の様子

で開催いたしました。
盛岡会場と先端加速器科学技術推進協議会（AAA）をオンラインで繋ぎ、講演は東京会場から行いました。北海道から九州までの20都道府県と海外からも含め633名の参加がありました。岩手県から全国に発信する講演会として好評を博しました。

当日の東京大学森俊則教授、東京大学山下特任教授、(株)東急総合研究所顧問で元国土交通省国土政策局長藤井健氏の講演はYouTubeで全国に発信いたしました。これらに関する質疑応答については、当推進協議会HPで公開しておりますので、ぜひご覧になって下さい。また、AAAと連携し、昨年1月から配信している「日本が変わる 世界を変える国際リニアコライダー（ILC）」動画は、7000回を超える視聴をいただいております。ILCの意義や地方創生などの波及効果、ノーベル賞受賞者からの誘致を期待するメッセージなど、ILCの理解が一層深まる内容となっておりますので、ぜひ皆さまにも全国に動画拡散をして下さいますようご協力をお願いいたします。

4 米国からの力強いメッセージ

米国においては10月20日～23日、SLAC国立加速器研究所を拠点に、日本を含み世界から500名超の参加のもと、リニアコライダーの国際会議がオンラインで開催され、最終日に米国政府から極めて重要なスピーチがなされました。

エネルギー省は「ILCへの強い関心と日本との二国間協議及び多国間協議を継続する。次の段階は政府機関もハイレベルで参加すべき。」との意向を示し、国務省は「IDTを通じたILCを前進させる取組みを支持する。日本政府と連携してILCを推進できる日を楽しみにしている。その実現には専門的組織の構築が必要で、国務省はILCのガバナンスを手伝える。」と強い支援と期待感を訴えられました。また、国立科学財団は「物理学コミュニティの強い支援と密接な関わりが必要。特に若手研究者の密接な関わりが必要である。」と世界の研究者に呼びかけるなど、ここに来て米国のILC実現に向けた機運は非常に高まっております。

5 日本の研究者コミュニティが新組織で体制強化

国内では、10月28日に、高エネルギー物理学研究者会議（素粒子物理学の研究者コミュニティ）が、政・産・官・学・地域連携と国内外の連携の推進を目的として「ILC Steering Panel（ILC推進パネル）」を立ち上げました。山下了特任教授が委員長を務め、11名の

委員はつくばのスーパーKEKBメンバーやCERNのLHC日本人メンバー等で構成されており、日本の高エネルギー物理学者全体が参画しております。「ILC推進パネル」は、研究者コミュニティを代表する組織として、大学との連携強化や海外への日本の推進状況の発信など活動を強化しております。



KEKと岩手大学が共同で作成したILC動画のPR用カード

6 日本が主導する初の大型国際プロジェクト

ILCは、国際宇宙ステーションなど日本がこれまで一参加国として貢献してきた国際科学技術計画とは異なり、初めて主催国として挑戦する大型国際プロジェクトであります。これには学術を超え、国として政策横断的態勢で取り組む必要があると考えます。

「地球村創生ビジョン」の策定委員を務めた藤井健先生は、講師として出席された当推進協議会主催のILC講演会（前述）で、コロナ禍で亀裂が深まる国際情勢を踏まえ「社会の分断の危機が高まる今こそ、人類が共に手を携えて地球的課題に挑戦する場所が重要である。ILCは人種、民族、言語等の垣根なく世界中から様々な人が集い、課題解決に挑戦する貴重なプロジェクトであり、新しい地方創生のモデルとなり得る。」と強調されました。

ILCは、日本として初めて国際プロジェクトを主導するものであり、新たなプロセスへの挑戦となります。ILC実現に向けた次のマイルストーンは、世界の研究所が参加する国際準備機構「ILC準備研究所」を創設

することです。そのためにも、ILC準備研究所を設置・運営するための政府予算措置が絶対に必要です。

7 活動の輪を全国に広げ、今こそILC実現を勝ち取る時

私はこれまで、子供たちや若者の未来の創造、世界とつながる新たな地方創生、東日本大震災津波からの復興、教育、産業振興にとどまらず、多分野にわたる波及効果を訴えてまいりました。

国内外の機運が高まってきた今こそ、東北の政・産・学・官・民が一体となって国民運動へと活動の輪を広げ、アジア初の国際大型研究科学技術拠点となるILC実現を勝ち取る時であると決意している次第です。

岩手県・東北、日本の未来創造のため、皆さまとともに全精力をあげて頑張ってください。ですので、本年もよろしくお願いたします。



ILC動画のQRコード



書きためた日記はエッセイに。
残しておきたい記憶、回顧、回想は自伝に。
趣味の絵画や写真は作品集に。

あなたの想いを
本にして
みませんか。

●お問い合わせは

川口印刷工業株式会社

Tel.019-632-2211

〒020-0841 盛岡市羽場10-1-2 <https://kpj.co.jp> Kawa-info@kpj.co.jp